

→ 邪馬台国の時代の奴国に硯！

埋蔵文化財発掘
ミュージアム

博多区

比恵遺跡群

弥生時代の奴国の中心地
と考えられている比恵遺跡群

で、平成28年夏、3世紀に使用された硯の破片が発見されました。出土した硯は約5cm四方、厚さ0.8cmの黒っぽい板状の石で、表面は磨かれ滑らかになっています。

筆や硯などの文具は、紀元前1世紀（弥生時代中期後半）以降、朝鮮半島南部から西日本に広まったと考えられています。当時は硯の上に粒状の墨を置いてすり潰し、水で溶いて文字を書いていたようです。

3世紀の日本は『魏志倭人伝』に記載のある時期にあたります。今回の発見は、邪馬台国の時代に奴国で実際に文字が使われていた可能性を示しています。弥生時代の

硯はこれまでに4遺跡で出土していますが、時期を3世紀代と特定できる資料は国内で初めての発見です。当

時の外交は文書で行うため文字は不可欠でした。この硯を使って書かれた文字を、中国や邪馬台国の人々も読んだかもしれ

ません。



比恵遺跡群で出土した硯

→ 4月・5月のイベント情報

- 4月1日 飯場神楽 場所：早良区飯場143
- 4月14・15日 県指定無形民俗文化財 香椎宮奉納獅子楽 場所：東区香椎4-16-1 香椎宮
- 4月15日 県指定無形民俗文化財 山ほめ祭り 場所：東区志賀島877 志賀海神社
- 5月12日 赤煉瓦文化館ガイドツアー
1回目：9:45～ 2回目：11:00～

国の重要文化財「赤煉瓦文化館」の見どころや普段立ち入ることのできない塔屋を案内。はがきFAX・Eメールで参加者全員の氏名・年齢、代表者の住所、電話番号、希望時間帯を記入して申込。5月2日必着。抽選。

【埋蔵文化財センター 考古学講座スケジュール】

- 5月19日(土) 人間と動物の関わり
- 動物考古学から見る世界 -
- 6月16日(土) 文献史料から見た舶来動物の古代・中世史
- 7月28日(土) 人とワトリの関係史
- その起源と日本への渡来 -
- 9月29日(土) 福岡市の肉食文化
- 福岡市内遺跡出土獣骨を中心に -
- 10月20日(土) 動物埴輪が伝える古代の儀礼
- 11月17日(土) ウマと信仰心 - 土馬・絵馬への願い -
- 12月15日(土) 妖怪になった動物
- 1月26日(土) 犬と人の歴史

福岡市経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1
TEL：092-711-4666 FAX：092-733-5537

| | | |
|----------------------|-----------|------------------|
| 文化財の保存・管理・活用に関すること | 文化財活用課 | TEL:092-711-4666 |
| 史跡の整備・活用に関すること | 史跡整備活用課 | TEL:092-711-4784 |
| 埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること | 埋蔵文化財課 | TEL:092-711-4667 |
| 埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること | 埋蔵文化財センター | TEL:092-571-2921 |

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



僕の名前は「こうろ」！よろしくね♪

ふくおか
文化財だより



Vol.14 2018年4月

今年度の考古学講座のテーマは動物！

- 捧げて！食べて！寄添って♡

わたし あなた
人間と動物の歩む道

埋蔵文化財センターでは、毎年、テーマを決めて月に1度計8回程度の考古学講座を開催しています。今年度のテーマは「動物」です。犬や猫、ニワトリや馬、さらには妖怪まで、各月いろいろな動物たちがみなさんをお待ちしています。



水鳥をかたどった埴輪



犬型土製品と

私たちは人間にとって動物は、食べる・着るなど人間の生命維持活動にとどまらず、神に捧げる、愛でる、家族として寄り添うなど、精神生活にまで深くかかわるパートナーでもあります。親密な関係にある動物との歴史的なつながりを知り、考えることで、これからの関係性を見直す機会となるような講座を目指しています。入場無料・申込み不要です。**年間スケジュールは、裏面「イベント情報」に掲載しています。**お誘いあわせの上、是非お越し下さい。

福岡市埋蔵文化財センター 詳細はこちらへ→
〒812-0881 福岡市博多区井相田2-1-94
TEL：092-571-2921



→ よみがえった福岡城南丸多間櫓

—保存修理工事が終了しました—



よみがえった多間櫓

歴史の風でたびたびお伝えしてきた福岡城南丸多間櫓の保存修理工事が、ついに今年の3月で終了しました。工事は、昨年度は隅櫓を、今年度は平櫓の工事を実施しました。地震の影響や経年変化で生じていた壁の亀裂や漆喰のはがれの修復、傷んだ木材や割れた瓦の交換を行い、漆喰塗りの白と下見板張りの黒のコントラストも美しい姿によみがえりました。

今年の福岡城さくらまつりでは、完成直後の多間櫓が桜とともにライトアップされました。また、今年初の試みとして、さくらまつり期間中に国内外で活躍する作家のアート作品を福岡城内各所に展示する「福岡城まるごとミュージアム」が実施されました。多間櫓でも複数に仕切られた小部屋が連なる内部構造を活かし、岡本光弘氏、ヤルー氏による個性豊かな作品群が各部屋に展示され、多くの観客を集めました。

多間櫓は、4月より従来通り9時～17時に外観を公開しております。美しくよみがえった多間櫓をぜひご覧ください。

→ 新たな国登録有形文化財

名島橋（東区名島2丁目から箱崎7丁目）



名島橋は、橋長204.1m、幅員25.2m、鉄筋コンクリート造七連アーチ橋で、昭和5年に着工、昭和8年に竣工しました。古典的な装飾をバ名島橋全景（下流側から）ランス良く配した、長大かつ均整のとれた優美なデザインを特徴としています。国道の全国的な展開と近代福岡の発展を象徴する道路橋として、平成30年3月の文化審議会において、国の登録有形文化財（建造物）に登録するよう答申を受けました（告示は7月予定）。

→ 新たな福岡市登録有形文化財

松源寺本堂（博多区千代3丁目）



松源寺本堂正側面（南側から）

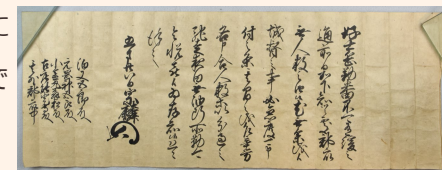
松源寺本堂は、正面5間、側面11間、大母屋造本瓦葺の建物で、細部は明治時代の特色がよく表れた彫刻等で飾られています。明治6年に竹槍一揆で焼失した後、藩主家菩提寺が困窮したのと対照的に、檀家の奔走により崇福寺仏殿を譲り受け、明治12年に再建されたといわれています。松源寺は、南西を流れる石堂川と南東を走る唐津街道・金出街道（篠栗街道）の交差点に位置しており、ランドマークとしても重要な景観をなしています。これらの点が評価され、平成30年3月に本市の21件目の登録有形文化財（建造物）となりました。

※ 詳しくは、福岡市の文化財HP>新着情報>平成29年度（2017年度）

→ 新たな福岡市指定文化財「瀆地文書」

—戦国時代の村に生きた侍の姿を伝える—

平成30年3月、有形文化財（古文書）「瀆地文書」182点と附の絵画が、新たな福岡市の指定文化財に加わりました。この古文書は、戦国時代（16世紀）に筑前国志摩郡元岡村（現西区元岡）を本拠として活動した土豪元岡氏の子孫に伝えられたものです。



志摩郡とは、（年未詳・16世紀後半）5月28日大友宗麟書状おおよそ現在の国道202号線を境として、糸島地方の北部にかつて存在した郡の名称です。平安時代の怡土庄開発以来の歴史を持つこの地域では、村々の有力者が成長し、戦国時代には元岡や泊、小金丸等の村の名前を名字とする地侍が並び立っていました。村落規模の小領主である彼らは全体で「志摩郡衆」と呼ばれ、南北朝時代以来、志摩郡全体を領有する権限を持っていた豊後（現大分県）の大名大友氏の支配下にありました。瀆地文書の中には、キリシタン大名として著名な大友宗麟が、志摩郡衆に対して大友氏の現地支配の要である柑子岳城（西区草場）の警備を命じた文書や博多で行われた毛利氏との合戦における彼らの勲功を称えた文書が残されています。戦国時代の志摩郡の村に生きた侍の姿を現代に伝える貴重な古文書です。